

# 極覧

社研だより

第 95 号

令和 5 年 10 月

発行 京都市小学校

教育研究会社会科部会

責任者 京都市小学校

社会科教育研究会

岡 博 士

京都市小学校社会科教育研究会

会 長 岡 博 士

## 会長就任にあたって

令和 5 年度、京都社研の会長を務めさせていただくことになりました。歴史と伝統を引き継ぐことに職責の重さを感じつつ社会科を愛する会員の皆様と共に、社会科の学びを深めていく所存です。本研究会では、一貫して「子ども」を主語にした研究主題を設定し、自ら問題意識をもち、子ども一人一人の考え方を大切にしたい問題解決的な学習を通して、資質・能力を育てていくことを大切にしてきました。その志を受け継ぎ、社会科を通して、子どもたちにこれからの社会を生きる力を付けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

5月に新型コロナウイルス感染症の法律上の位置付けが変わり、対面での活動が戻ってきました。そのような状況の中、夏季休業中に授業実践力向上講座が「学習問題って、どのようにつくればいいのか？」をテーマに行われました。研修会場いっぱいの参加者で、社会科授業における学習問題に対する関心の高さを実感しました。模擬授業を通じた学習問題づくりの実際では、教師の資料提示や発問など学習問題に向かうための社会的事象との出会いの工夫を具体的に学ぶことができました。学習問題が子どもの疑問文をつなぎ合わせた問題文づくりではなく、教師が意図的に設定するものであることを改めて確かめることができました。

また、一日社研では、ポータル配信で島根大学大学院教育学研究科 教授 加藤 寿朗先生の講義「社会的な見方・考え方を働かせる社会科授業デザイン」を視聴しました。社会的な見方・考え方を働かせる学習のキーワードは「問い」でした。学習活動のスイッチとしての「問い」、社会科の中で必要とされる社会を読み解くための「問い」という問いの役割がまとめられていました。さらに、問題解決的な学習過程として「予想する」とともに「調べる課題をつくる」段階の大切さが強調されていました。子ども自身が学習の道筋をとらえ、今、何を調べ確かめようとしているのかを意識できるようにするということです。

さらに、一日社研で研究部から提案された研究構想においても研究の視点として「学習問題の設定」と「見通しの充実」が掲げられています。子ども一人一人が問いを自分事とし、他者とのやり取りを通して自己調整しながら問題解決的な学習を展開することが多様化・複雑化する世の中で求められる社会科授業であると提案しています。

この夏の研修を通して示された問題解決的な学習の充実を図るための課題は、学習問題を含めた「問い」と「見通し」でした。これらは、教師の課題としても考えることができます。研究会員一人一人が研究会活動における課題を自分事と考え、問題意識をもち、よりよい解決に向けて話し合えるように努めていきます。令和 8 年度には、全小社研 京都大会を開催予定です。「見通し」もって準備を進め、京都の社会科学習を全国に発信できるよう研究会員の皆様のご協力をお願いいたします。

# 研究に期待されていること

京都市総合教育センター 首席指導主事 鈴木 宏 紀

日頃より本市教育推進にご支援・ご協力いただいておりますこと深く感謝申し上げます。昨年度は、京都市スタンダードの加筆修正・副読本『わたしたちの京都』の部分改訂・『資料動画』『指導案』の作成等、本市社会科教育の充実・発展に向けて多大なるご支援・ご協力をいただきましたこと、改めてお礼申し上げます。微力ではありますが、今後も社会科教育研究会の皆様と共に京都市の社会科教育の推進と発展のために尽力したいと思っております。よろしくお願いいたします。

昨年度は全国小学校社会科研究協議会研究大会熊本大会、近畿小学校社会科教育研究協議会兵庫大会、そして京都市小学校社会科教育研究会研究集会在山階南小学校で、参集で開催されました。社会科に携わる先生方の熱意や子どもの育ちを肌で感じ、直接授業を参観することのよさや意義を感じながら、たくさんのことを学ばせていただきました。このような大会の際に、教科調査官の小倉先生から繰り返し、次のようなお話をいただきました。

## ～全小社の研究に期待すること～

### 1 『学習指導要領の内容・教材について』

◇教材研究⇒教材開発⇒教材分析・吟味⇒教材化

### 2 『問題解決的な学習過程について』

◇子供の学びのプロセスを大切に学習過程  
◇45分の授業が学習過程に位置付くこと

### 3 『問題解決的な学習過程の充実について』

(社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習を通して)

◇問い(学習問題)、話し合い活動、ICT 端末の効果的な活用、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断する、学習評価

#### 【小倉調査官スライド資料引用】

(ここからは私の解釈になりますが…) 上記を受けて、1については、改めて『学習指導要領』との整合性を確認することが大切であると

いうことです。今までの研究でも重視してきた『人物の営み』に焦点を当てながら、教材開発を行うことは大切です。しかし、開発した教材が、目標の達成につながるかについて教材を分析・吟味することが必要なのです。そのためにも、今一度、学習指導要領(解説)を深く理解することが求められているのです。

2については、1時間の授業を考えるのではなく、単元で授業を考えるということです。そのためには、子どもの思考の流れを意識し、単元を通して確かな社会認識を育むことにつながるかについて単元構成を見直すことが必要なのです。1時間の授業は、綿密な単元構成があってはじめて成立するのです。

3については、子どもが社会的事象から学習問題を見出し問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見出したりする学習過程を工夫するための視点が示されています。言い換えれば、主体的・対話的で深い学びへ授業を改善するための視点です。特に、見方・考え方を働かせる鍵が『問い』であることを考えると、問いの工夫・改善は避けては通れないでしょう。問いと関連して、平成24年度実施の学習指導要領実施状況調査教師質問紙で課題となっている議論・討論する話し合い活動についても、その充実を図っていく必要があります。また、学習評価をどのように指導に生かすかについては、更なる研究が求められています。

このように、研究に期待されていることは至極当たり前のことのように思います。しかし、この当たり前が、研究としてできているかという指摘のように私は感じます。

私たちの研究に期待されていることを大切にするとともに、授業改善を通して、学習指導要領に示す資質・能力を育むことや生涯にわたって能動的に学び続ける学習者を育むことを忘れず、私自身も研究会の皆様と共に研鑽を積み重ねていきたいと思っております。

◆令和5年度 研究主題◆

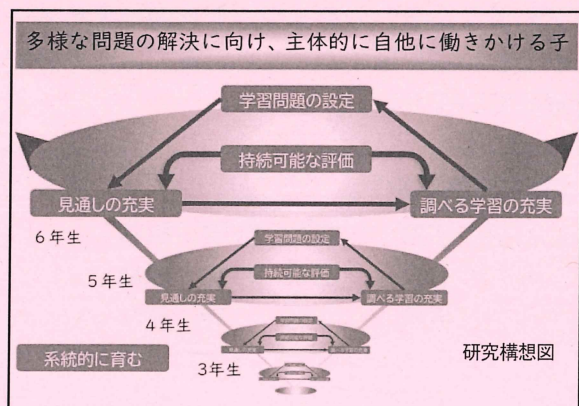
# 子どもが調べ進める社会科学学習

～子どもの知りたい！話したい！考えたい！が溢れる社会学習の創造～

研究部長 加藤 俊介

様々な変化の激しい時代が到来し、これからの社会では、既にある問題・課題だけではなく、今後新たに生まれる問題に対しても主体的にかかわり、他者と協働しながらその解決を図ることが求められています。そのような子どもの育成に向け、社会科では、子どもたちが見出した問題を解決の見通しをもちながら追究していく、これまで実践を重ねてきた問題解決的な学習のさらなる充実を図ること、系統性（つながり）を意識することがこれまで以上に重要となってきます。そのためには、子どもたちが見出した問題について主体的に調べる学習を進めること、その中で子どもたちが自分たちの必要感から話し合うこと、そこからさらに考えを深め、さらに問いを追究していくこと、そのような学習を指導者主導ではなく、子どもたち自身の子どもたち自身による学びとして実現することが求められます。

このような社会科学学習の実現を目指し、今年度の研究主題を「子どもが調べ進める社会科学学習～子どもの知りたい！話したい！考えたい！が溢れる社会学習の創造～」とし、目指す子ども像を「多様な問題の解決に向け、主体的に自他に働きかける子」としました。そして、次の5つの視点からその実現を目指し、研究を進めていきます。



## 〈視点1〉学習問題の設定

質の高い「なぜ～だろう」「どうすれば～だろう」などの学習問題を設定します。そうすることで、多様な視点から予想し、社会的事実の事実を捉えるだけでなく、意味や意義を考えたり、社会にみられる課題を解決するための最適解・納得解を考えたりすることができるようにします。

## 〈視点2〉見通しの充実

学習問題の解決に向け何を、どのように、なんのために調べるのか、子どもたちが見通しを明確にもてるようにします。見出した予想について互いに議論する中で問い化したり、調べた結果を踏まえて自分の計画を振り返って見直したりし、主体的に学習に向かうことができるようにします。

## 〈視点3〉調べる学習の充実

子どもたちが各自の計画に沿って調べる学習を展開します。調べる時間を十分に確保し、各自が資料を選択したり必要に応じて話し合ったりするとともに、社会的事実の意味について考える時間を単元構想に組み込み、考えを深めることができるようにします。

## 〈視点4〉持続可能な評価

指導者は子どもたちが調べる時間に、個に応じた支援を行う中で継続的に評価を実施したり、子どもたちが自分の学びを適切に振り返るための視点例を基にしながら振り返ったりすることで、無理なく評価を続けられるようにします。

## 〈視点5〉系統的に育む

調べ進める学習を展開するために、どのようなことができるようになればよいかを整理し、1年間で育むのではなく、4年間のつながりを意識して子どもを育みます。

### 3年部会

#### ◇3年部会テーマ◇

地域の人々の営みから学びを深め、  
自分と地域とのつながりを  
考える子ども

3年部会では、地域の様子や人々の姿を通して学ぶことで、子どもたちの地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を育てられるようにしたい。

#### 3年部会テーマ実現のための方策

##### 〈視点1〉学習問題の設定

①～⑤のタイプの学習問題から、3年生の教材や発達段階に応じたものを選択し、より効果的に活用できる場面を探るようにする。

##### 〈視点2〉見通しの充実

生活経験をもとに予想をしたり、協働的な学びを通して予想を深めたりする中で、調べ学習での視点を明確にもつことができるようにしていきたい。地域の人々との体験活動や現地調査等で調べることが多くあるため、見学やインタビューなど、どのような方法で調べるのかということについても、見通しをもつことが大切であると考える。

##### 〈視点3〉調べる学習の充実

まずは、社会科の学び方を丁寧に指導したり、問題解決的な学習のプロセスを大切にしたりする。その中で、少しずつ、子どもたちの主体性を核とした調べる時間や、意味を考えたりする場面の設定を行っていきたい。地域の人々の営みに着目できるような教材開発を積極的に行い、自分と地域とのつながりを考える子どもを育てていくようにする。

#### 【授業実践予定】

「わたしたちの暮らしとはたらく人々」

下京雅小学校 上田 亮介 教諭

「安全な暮らしを守る」

正親小学校 小澤 茉央 教諭

「安全な暮らしを守る」

鳳徳小学校 田村 祐崇 教諭

〈3年部会 部長 上田 亮介〉

### 4年部会

#### ◇4年部会テーマ◇

自分たちの暮らしを支える人々のおもいや  
願いについて学びを深めることで、  
地域社会に対する誇りと愛情をもち、  
地域社会と自分とのつながりを考える子ども

#### 4年部会テーマ実現のための方策

4年部会では、子どもたちが、調べ進める学習を展開できるようにしていくために、学習問題と予想を考えた後に「学習問題を解決するために何を調べればいいのか話し合わせる」時間を設定したい。

そうすることで、調べる内容が明確になり子どもたちが主体性をもって調べ学習を進められると考えている。

以下、「古くから受けつがれてきた産業の盛んな宇治市」の單元において、「見通し」をもち「調べ進める」内容について一部、例示する。

#### 学習問題

なぜお茶が有名なのだろう。

予想	調べること
作りやすさがある	地形・気候
おいしさ	作り方
伝統がある	歴史
宣伝している	まちの様子 誰がどんなことをしているのか

複数の單元で何を調べればよいか話し合わせていくことで、既習を活用しながら主体的に学習に臨めるようになると考えられる。

どのような問いで子どもたちが調べ進めることがより目標を達成することに繋がるのか研究を進めていきたい。

#### 【授業実践予定】

①正親小学校 井上 雅彰 教諭

②葛野小学校 田中 百恵 教諭

③七条小学校 井上 巧 教諭

〈4年部会 部長 仙波 俊輔〉

## 5年部会

### ◇5年部会テーマ◇

社会のあり様や、そこに生きる人々の姿から学びを深め、よりよい社会へ向けて、社会と自分とのつながりを考えようとする子ども

5年部会では、国土の特色、産業の現状、社会の情報化について、国民生活との関連を踏まえて理解すること、また、社会的事象の特色や社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力を養うとともに、それらを基に議論したりする力を養うことを中心に授業づくりを進めていきたいと考えている。

### 5年部会テーマ実現のための方策

#### 〈視点1〉学習問題の設定

子どもが捉える問いを大切に学習問題を作り、そして、学習問題を追究・解決する問題解決的な学習を進める。

#### 〈視点2〉見通しの充実

問いに対して、予想をもとに「自らの学びを調整する」という視点を明確に位置付け、学習の見通しをもてるようにする。

#### 〈視点3〉調べる学習の充実

子どもの主体性を軸とした調べる時間の設定や調べた事実をもとに意味を考える場面の設定を行う。

#### 〈視点4〉持続可能な評価

ふりかえりをする場面や視点を意図的に設定し、子どもが自分の学びを実感できるようにする。

#### 〈視点5〉系統的に育む

見通しをもつ場面、調べる場面において、系統表を参考にし、主として力点を入れる学年はどこであるのかを捉え、系統的に子どもが調べ進めることができるようにする。

#### 【授業実践予定】

- ①9月27日「水産業のさかんな地域」  
岩倉南小学校 猪股 健悟 教諭
- ②11月予定「自動車をつくる工業」  
小栗栖宮山小学校 西田 圭孝 教諭
- ③2月予定「自然災害をふせぐ」  
山階南小学校 上口 洋平 教諭

〈5年部会 部長 林 奈央人〉

## 6年部会

### ◇6年部会テーマ◇

社会の発展に寄与した先人や今を生きる人の営みから学びを深め、社会と自分とのつながりを多角的に考える子ども

6年部会では、研究部の主題設定を基に、政治・歴史・国際社会について学んだことを自分とつなげて考える社会科授業を目指していきたい。また、小学校社会科としての系統性に注目し、他学年とも連携しながら、部会の形を模索していきたい。さらに、教員としても学び続ける存在であるために、ニーズに合わせた勉強会を設定していきたい。

### 6年部会テーマ実現のための方策

#### 〈視点1〉子どもの主体性を引き出す問題設定

社会科は問題解決的な学習の展開が必須である。単元、さらには学年を通して社会科学習を進めるにあたって、質の高い問いの設定が、それ以後の子どもたちの活動を左右するといっても過言ではない。特に因果関係を問う問い、価値・判断を追究する問いの充実を目指し、単元設定を深めていきたい。

#### 〈視点2〉子どもが自発的に進める調べ学習

子どもたちの主体性を核とした調べる時間を設定できれば、子どもたちは自発的に学習を進めることができるはずである。全体の問いで学級としての学習の方向性のルールは敷くが、子どもたち個々の問いも大切にすることで、1時間の学習の後半における集団解決の場面で、多角的に物事を見つめ、考えることにつなげていきたい。

#### 〈視点3〉持続可能な評価の探究

子どもたちの変容を促していくためにも評価は大切な役割を果たす。指導者がまとまった調べる時間の設定を心がけることで、無理なく評価を進めることができる。GIGA端末の効果的な利用も含めて、よりよい働きかけ、見取りを行える指導を目指したい。

#### 【授業実践予定】

- 12月上旬「世界に歩みだした日本」  
九条塔南小学校 洲崎 陽大 教諭

〈6年部会 部長 石原 一繁〉

## 注目される「非認知能力」

極覧会 会長 岩 淵 信 明

コロナ禍で人と人とのつながりが薄くなり、心の絆による社会のぬくもりが感じにくくなってきました。

内閣府実施の調査結果をみると、「あなたは現在の日本が、治安がよく安心して暮らせる国だと思いますか。」の項目では、「そう思う」及び「どちらかというそう思う」という、安心な国であると答える回答が毎年増加して、数年前にはおよそ8割になりました。しかし、昨年にはその割合が7割に減少してしまいました。

また、日本の犯罪認知件数に目を向けると、20数年間、犯罪件数は減少を続けてきましたが、2022年の統計では増加に転じてしまいました。

いずれの統計も、最近の日本社会が安心できない状況になりつつあることを示しているように思えます。なぜなのでしょう。

こうした状況下で、教育分野では、「非認知能力」に注目が集まっているようです。この「非認知能力」を数値化する調査を実施しようとする教育委員会の動きも報道されています。

長きにわたって一般的な学力を表す「認知能力」が重視されてきましたが、2000年ごろから、「非認知能力」が注目され始めたとのこと。急速に変化する世界情勢の中で、よりよい社会の在り方を求める方向に人々の目が向けられる傾向となってきたようです。

「非認知能力」は、好奇心や自制心、主体的に学び考える力、物事をやり抜く力、人とのコミュニケーション能力などをさし、今では、人間関係をうまく築けるか、社会をしっかりと生き抜くことができるか、といった力を身につけることの重要性を示唆しているように思います。

IQが高くても、自ら学ぼうとする意欲や姿勢が弱かったり、コミュニケーションがうまくできなかつたりすると、質の高い生活に向かう力へとつながっていきません。今こそ、日本社会においては、よりよい社会を創ろうとする意識を高めていかなければなりません。

現行の学習指導要領では、育成すべき資質・能力を、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」と示しています。認知能力である「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」だけでなく、非認知能力ともいえる「学びに向かう力・人間性等」が重視されることとなってきました。

日本でも、ここ数年、学校教育にタブレットが導入され、その活用等を進めつつも、より子どもの主体性を高める教育の在り方が問われているのではないのでしょうか。

多くの学校で、「人とのつながりの中で自ら学び、考え、これからの社会をつくりだす子どもの育成」といった教育目標が掲げられているようです。

いつの時代もこの具現化がなかなか難しいなあと思う今日この頃です。